



**入社した頃** 大阪千里にて日本万国博覧会が1970年に開催され盛況裡に終了した翌年、新日本技術コンサルタント(現ニュージェック)に入社しました。人々の生活が安定し、日常の生活から目新しい物に興味を持ち、自分の目で確かめ、多くの人々と共に参加し、喜びを得る時代にランドスケープの世界に参加したといえます。

当時は造園の知識を持つ者は私一人しかおらず、大規模な公園の業務を進めるためには、土木・建築・電気等々、幅広い分野の人々や協力会社の人々とが一体になり、協力して進めることが必要でありました。

**河川やダムの修景分野への参加** 当社は、黒部ダムを手がけたことからスタートしており、河川やダムなどの水辺環境整備について提案し、計画・設計を行う時期が来ました。当初は流下能力の阻害要因となる植栽や修景的な施設配置というものは、全く受け入れられないこともありました。日常生活と密着した河川空間のなかに、人が憩い集える場所を求めて、『河川事業関係例規集』などから、ヒューマンスペースの配置の可能性を捜し求めたこともあります。その後、河川法に環境要因が加わるとともに、景観的な要因も含めた計画に理解されるようになりました。

今思いますと、新しいフィールドで、人が関わり、自然を活用する仕事を進める場合に、本来の施設の基本的な機能やルールを理解する事が、修景的な施設をうまく導入し配置する事に繋がるのだと思います。

**自然の中のランドスケープ** 最近では、自然を利用する計画や設計にも携わっています。自然は、利用者に楽しい発見を与えてくれます。多くの自然現象や、日頃見かけない植物や動物と遭遇することは、人間の感覚と叡智を呼び覚ます機会を与えてくれるのです。しかし利用の魅力の一方では危険が背中合わせに存在しています。自然の恵みに触れる機会を作ることや冒険の楽しさを作り出すときに、利用者の自己責任の範囲や管理者責任の範囲について、ランドスケープアーキテクトとしてどのように認識し、計画設計に反映できているかを確認することが求められているように思います。

**これからの取組** 総合コンサルタントで働くことで、多岐に亘る業務を行い、興味をより深め、自己の知識習得に励み、仕事にも活かせるよう取り組んできました。これからもランドスケープに関連し私の周りには、魅力のある情報が、飛び交うことでしょう。

『今日という日が、これからの人生で一番若い日である』という気持ちを持ち続け、今後も色々な事に挑戦し、より良い風景作りに参加していきたいと思います。

出口直彦

株式会社ニュージェック  
都市・地域整備グループ  
技術士(総合技術管理部門  
・建設部門・環境部門)、  
RLA

